

第3回 六甲山系学習ゾーン検討委員会

議 事 要 旨

1. 開催日時：平成19年1月29日(月) 10:00～12:00
2. 開催場所：国土交通省 近畿地方整備局 六甲砂防事務所 1階会議室
3. 出席者：

【委員】

田中 眞吾 (委員長)		
大藪 典子	東灘区まちづくり推進課長	
後藤 宏二	六甲砂防事務所長	
嶋津 敏幸	灘五郷酒造組合常務理事	
大黒 孝文	神戸大学発達科学部附属住吉中学校教諭	
豊田 實	神戸歴史クラブ理事長	
道谷 卓	姫路獨協大学法学部助教授	
宮田 隆夫	神戸大学理学部教授	
室谷 弘文	住吉川清流の会会長	
山本 眞敬	市立住吉小学校PTA会長	

【事務局】

六甲砂防事務所	石尾課長、狩集建設専門官、金丸技術員
株式会社エイトコンサルタント	伊藤、田中、長谷川、松島、苦瓜、平井

4. 配付資料

- 議事次第(次第・委員会名簿・配席図・第2回委員会議事要旨)
- 第3回検討委員会資料 (資料①～⑤)
- 参考資料編 (学習要素の整理・冊子(案)「みんなで語り、伝えよう!住吉川物語」)

5. 議 事

1. 開会	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ
2. 第2回委員会での意見概要について	・事務局による説明(資料①)
3. 第3回委員会での検討内容等について	・事務局による説明(資料②)
4. 学習の目的とテーマについて	・事務局による説明(資料③)
5. ストーリー・ルートの具体について	・事務局による説明(資料④、参考資料編)
6. 学習地点及び施設整備等について	・事務局による説明(資料⑤)
7. 次回委員会の予定について	・事務局による説明
8. 閉会	・六甲砂防事務所 後藤所長あいさつ

<議 事>

●資料①～④ 事務局説明

●意見交換

(田中委員長)

- ・資料①～③については問題ないと思う。
- ・冊子等に記述されている「石碑、石像、石仏等」の語句の統一を図る必要がある。

(後藤委員)

- ・ストーリーの骨子(資料④、8P)と冊子を一緒に確認すると全体がよく見えてくる。気が付いた点として、8Pの一覧表の「1-1-3. 昔の海岸線は今とは違っていたんだ」というタイトルとエピソードの「六甲山って、昔ははげ山だったんだよ！」が若干、ストーリーの屈折を感じる。
- ・六甲山で見られる代表的な地質として、花崗岩や堆積岩等について、冊子の早い段階で紹介するとともに、年代的な順序を時間軸で整理すると、この街の変遷が分かりやすいのではないかと。膨大なベースの情報を時間軸というものさしを使って説明してはどうか。
- ・現在、インターネットを使って様々な防災情報が提供されている。子どもたちがそれらを活用して、自ら得られる防災情報にはどのようなものがあるのかを紹介し、「実際に調べてみよう!!」というページが冊子の「安全を考える」編の中にあっても良いのではないかと思う。

(事務局)

- ・8P以降の各一覧表のエピソード・コラムは、子どもに興味関心を抱かせたいという、委員の方からのご意見を反映し、問いかける形式としている。ただし、冊子については、できる限り平易に作成したものの、小学生には難しいのではないかというご意見も頂いている。冊子の表現、構成についてもご意見を頂きたい。

(大黒委員)

- ・中学校教師の立場から、この冊子は中学生に対し十分に活用できると思う。
- ・しかし、例えば、花崗岩は中学2年で初めて出てくる言葉であり小学生には難しく、堆積岩も同様で、小学生にとっては、ただの石や岩である。そういう知識が無いものをフィールドで、実際に手にとって特定できるような機会がこの場で得られるのであるから、小学生を対象として動く場合には、この冊子とは別に学習の進め方の冊子が必要になってくると思う。

(道谷委員)

- ・小学生に対して、冊子の内容を完全なものにするのではなく、例えば、現地で書き込んだり、写真を撮って貼り付けたりするサブノートの冊子、先生や大人に対しては、答えがある完全な冊子という別々の冊子を作成してはどうか。
- ・博物館では、展示ごとにシートを作って、それを一つずつ集めながら最後まで見学すると、シートがすべて集まるというやり方もやっている。
- ・学習の進め方は、子どもたちに冊子を一式、渡してしまうやり方や必要な部分を分けて渡し、最後にルーズリーフで綴じるやり方等、様々な方法が考えられる。
- ・この冊子は中学生には十分活用できるが、小学生では難しい。対象者をどこまで下げていくのかという議論もあるが、小学校、中学校の先生に確認して頂き、漢字にルビを付ける作業も必要である。

(豊田委員)

- ・小学生が住吉川流域で先人がどのような生活をしていたのか、また、そのすばらしさを自分たちが暮す地域で学ぶということは非常に重要なことである。小学生は、自分たちが住む街の身

近なものに非常に興味を持つ。例えば、「地蔵はなぜ赤いよだれ掛けをしているのか？」というような素朴な疑問を持つ。それに答えられる読本があれば良いと感じる。小学生向けの視点が必要ではないか。

(道谷委員)

- ・六甲山の100万年の歴史を1日の24時間や1年365日に当てはめて換算して、表で整理すると子どもには分かりやすい。歴史の分野ではよく使う方法である。

(豊田委員)

- ・新しい文学者の名前だけではなく、伊勢物語の在原業平をはじめ太田蜀山人など、住吉川を行き来していた多くの昔の文学者とその紀行文を紹介したり、川に橋が無かったなどを知ったりすると、子どもたちの興味・関心につなげることができるのではないか。

(田中委員長)

- ・六甲砂防事業50周年記念の際に、「六甲山の地理」という本を作成した。そこには、さらに詳しい六甲山に関する情報が載っている。
- ・冊子の内容は、深さや幅広さ等、どこに焦点を絞るかということも一つ重要な視点である。
- ・細雪に描かれている阪神大水害の描写が、実は小学生の作文を引用したという事実も小学生の目線からみれば興味深い事柄ではないかと思う。

(道谷委員)

- ・エピソード・コラムの大阪城の築城「阪」は、歴史的な場合は「坂」を使うので、訂正していただきたい。厳密には秀吉の大坂城と表現する。

(島津委員)

- ・最終的には、こういう冊子を作るという理解で良いか。参考資料の整理表は公表されるのか。

(事務局)

- ・一つの成果として冊子を完成させるという理解をしていただければ良い。参考資料については公表しない予定である。

(島津委員)

- ・「灘五郷」という言葉も含め、内容に若干の悩みがある。冊子の2-4から8, 9に掛けての酒蔵の話、表現、歴史的事実に関して、修正指示書を作成しており、再度整理をお願いしたい。

(大藪委員)

- ・この冊子は、小学生には難しい内容である。また、小学校の先生でも得意分野が分かれおり、歴史が得意な先生、地理が得意な先生と様々である。冊子をばらばらにでき、どこからでも入り易い内容で整理すれば、小学生を対象としても活用し易いのではないか。
- ・歴史という分野は非常に人気が高い分野である。小学生に限らず、大人でも実はよく知らないことが多くある。
- ・西国街道や酒蔵の道をはじめ市街地の中は、お年寄りでも歩き易く、実際に行きやすいが、山の中はプロでも難しいところがあるので、ストーリー全体にこだわらず、場所の紹介だけでも十分意味があるのではないかと思う。
- ・子どもたちが地域に興味を持ってもらえるのは、行政としてもありがたい。
- ・冊子の内容に関しては、社会科や理科の先生の集まりなどで意見を頂いてはどうか。

(山本委員)

- ・この冊子は良くできていると思う。子どもが理解しにくいのは、地質的なことではないかと思う。言葉では理解できても実際の中身の理解はなかなか難しいと思う。地質的なことよりも防

災的・砂防的なことを子どもたちに分かり易く教えることが重要である。

- ・考えなくても遊びながら学べることが、理解の窓口になると思う。

(事務局)

- ・これまでの意見交換を通じて、別途、小学生向けのやわらかい冊子が必要だと再認識した。

(田中委員長)

- ・完全版と内容を限定した狭い範囲のパンフレットのようなものが必要であると思う。

●資料⑤ 事務局説明

●意見交換

(道谷委員)

- ・ハード面については、看板の設置が主となると思うが、既存の看板のとの整合性や新規の看板を設置する場合の統一性に留意する必要がある。既存の看板を有効活用し、情報を追加することも一つの方法である。
- ・ソフト面については、インターネット等、様々な方法での情報発信が重要になってくる。ただし、今回の冊子やマップをホームページで公開する場合は、著作権の2次被害の問題が危惧される。
- ・冊子やマップを使って、実際に歩いてみたり、講演会等の催しで、情報提供してくることも必要である。

－休憩（5分間）－

(室谷委員)

- ・防災に関しては、阪神大震災の意識が徐々に薄れてきている。インターネットも良いが、防災に関しては、知識だけでなく実際の訓練を通じて、体験して学ぶことが重要である。
- ・中学生に防災について講義した際、「震災時、どうして、迅速に対応できたのか？」という質問があったが、小さいときから親に体で防災を教えられてきたからだと答えた経験がある。
- ・現在、防災訓練をどのようにして多く開催していくべきか頭を悩ましている。
- ・地域の役員会では、防災活動の一環として、まち歩きをしているが、ただ歩くだけではなく、電柱の数、マンホールの位置や種類まで細かく把握して、実際に災害が起こった時に対応できるよう、頭ではなく、体で覚えていく必要がある。

(宮田委員)

- ・ハード面の整備では、山の中の断層の見学を考える場合、断層自体よりもアプローチが大事な問題である。
- ・アカホヤ等の断層露頭の保存は、手間やお金を掛けずに雑草を刈って、見学しやすい状態に保つことの方が重要である。露頭をガラスで保存したとしても、土石流が発生すれば、壊される可能性もあり、ハード的な施設整備をするには、難しい場所である。
- ・冊子については、不思議編の早い段階で、自分たちの街がどのようにしてできたのか、地質の話も含め分かり易く紹介する必要がある。例えば、丹波層群とか。また、冊子で扱う言葉は、優しく書く必要がある。

(事務局)

- ・提示している冊子は、中学生向け、ほぼ大人向けとして位置づけ、これを踏まえ、小学生向けに簡潔にした別冊が必要であると本日の意見を伺って感じた。

(後藤委員)

- ・小学生向けの冊子は、細かい説明より、標本づくりのような、例えば、写真を貼り付けて自分たちで完成させていくイメージのものが良いのではないか。
- ・この冊子を有効に活かし、エピソードがあって、その答えを子どもたちが貼り付けていくイメージで考えていければ、併用できるのではないかと思う。

(豊田委員)

- ・学習ゾーン整備の目的に関して、「学ぶことにより・・・」の「・・・」は必要ないのではないか。意欲を持たせるような表現にする必要がある。

(後藤委員)

- ・「・・・」を削除して、次の文章につなげて良いのではないか。

(大黒委員)

- ・ワークシート形式も良いが、はじめから、学習プランの線路が引かれていると子どもたちは途中で、投げてしまう。スタンプ形式も楽しいが、中、高校生になると、例えば、総合学習でも自分で課題を発見して、クリアしていく途中で課題が変わることがある。
- ・例えば、なぜ、だんじりが始まったかを調べると、それは、疫病が流行って、その疫病は、水害で衛生状態が悪くなったことにたどり着き、次に、なぜ水害が起こったのかという風に課題が常に変化する。
- ・教師は教えることが好きだが、子どもたちの探究心を養うという意味では、本当は教えるはいけない。教える部分と子どもたちが自分で探求できる部分の区分が必要である。

(宮田委員)

- ・冊子の内容は高校生には物足りないと感じる。学校の先生が冊子を実際に使う立場で、手を加えて作っていく必要があり、すべてこの委員会で対応することは不可能である。

(大黒委員)

- ・整理表①の関係性の整理が非常に有難い。子どもたちがどちらの方向に興味を持っていくかが分かり易い。
- ・この冊子は高校生にも問題ないと思う。これ以上のことは高校教師が調べればよい。

(事務局)

- ・整理表に使っている出典は今後整理を行い明示するので、高度な利用をされる方は、出典資料を調べて頂き、さらに深く掘り下げていけるようにしたい。

(豊田委員)

- ・この住吉川のサンプルが充実したものになれば、すでに神戸市にあるその他の物語と共に、新たな物語が完成しこの地域が充実する。川を中心にこのような活動が広がっていくと良い。

(田中委員長)

- ・内容も多岐に亘っているため、事務局で本日の内容を踏まえ再整理していただき、各委員へ随時連絡・確認していただければと思う。

●次回委員会の予定について

(事務局)

- ・次回第4回委員会は、2月27日、火曜日、14:00からのこの会議室で開催を予定しているの
でよろしくお願ひしたい。

<閉会挨拶>

(後藤事務所長)

- ・今回に限らず、前回、前々回でのご意見も踏まえ、再度事務局で精査していきたい。今年度は、
2月27日が最終の委員会であり、今年度の成果を提出すべく作業を進めていきたい。
- ・各委員におかれては、冊子等に再度、目を通していただき、ご指摘等を事務局の方にお願ひし
たい。

以上